

サンプル(第一章のみ)

人類が真に目指すべき社会構造

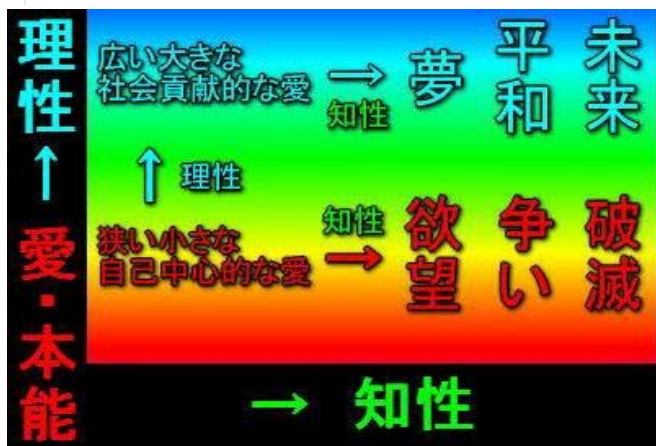
夢主義社会

大森 誠司

夢主義社会にお金はありません。

人々は夢を追い求めます。

報酬は、次の夢に挑戦できる権利です。



私は子供の頃、未来の事を考えるのが好きでした。SF(science fiction)のマンガの本や、テレビのアニメ、映画等が大好きな子供でした。未来社会はどんな社会なのだろう。自分自身でも、より良い未来社会を作るために役立ちたいと思っていました。

子供の頃は、SFの物語の中に出てくる悪役は、架空の存在だと思っていました。でも、物心が付いて、周りの大人たちを見ると、架空の存在だと思っていた悪役が、けっこうたくさん現実社会に存在しているではありませんか。それどころか、最近では、どんどんエスカレートして、「現実は小説よりも奇成り」で、SFの物語の中に出てくる悪役以上に、汚く、悪く、醜い行爲が行われています。現代の科学技術では、SFの物語の中で想像されてきた様々な良い技術が現実のものになってきています。同時に、SFの物語の中で表現されてきた悪い社会も、平行して現実のものになってきています。技術はどんどん進歩する一方で、人の心はどんどん腐敗しているように感じます。

今の社会では、資本主義社会の中で、利潤を求めてお互いに競争することで、より良い社会を得られると考えられています。ほんとうにそうなのでしょうか。人は皆、夢が大切であることを知っているでしょう。でも、資本主義社会の延長線上に、人類の未来・夢はあるのでしょ

うか。今の社会は、ズル賢い大人たちが、自分たちに都合良く考え出した悪の社会のように思えます。夢が大切ならば、もっと夢を大切に考えた社会構造にすべきです。

現在、人類が進んでいる道は、正しいのでしょうか。「何か根本的なところで間違っているのでは？」と感じます。無我夢中で走り続けるよりも、少し立ち止まって、何が正しいのか、本来どうあるべきか、考えてほしいと思います。愛とは何か。夢とは何か。お金とは何か。人類が真に目指すべき社会構造はどうあるべきか。少し立ち止まって、考えてほしいと思います。今ならば、未だ、間に合います。この社会を正しい方向に軌道修正可能です。

この本の中で、色々な私の個人的な考えを述べていますが、私は専門的な知識を持った学者や知識人ではありません。ですから、ここで述べた考えが全て正しいとは、私自身思っていません。きっと、真にあるべき社会は、私の考えが及ばないくらい、全く別のところにあると思います。

ニュートンは、リンゴが木から落ちるのを見て万有引力の存在に気付いたそうです。この本が、落ちたリンゴとして、皆様が、真に目指すべき社会構造を見出すきっかけになれば、幸いに思います。

目次

第一章 ☆人間の本質を考えます	5
【愛と夢】	5
愛と夢	6
愛は本能	7
夢は理性	8
愛と夢の略図	9
愛と夢の方程式	10
偽りの夢⇨欲望	11
自分の欲望より、人類の未来	12
第二章 ☆現代社会の問題点を考えます	13
【一般編】	13
人・物・金	14
お金の問題点	15
脳が作り出した仮想社会	16

第一章 ☆人間の本質を考えます

【愛と夢】

愛と夢

愛は、本能

夢は、理性

自己中心的な、小さな愛ではなく、理性による、大きな愛で、より良い人類の未来を願う心が、夢です。

人類の夢は、「より良い社会を、未来に残すこと」であるはずで、個人の夢も、根底は同じはずで。

「より良い社会」とは、「全ての人が自由であり、夢を持ち、その夢に向かって歩ける社会」だと思います。

この社会の実現ためには、社会構造を根底から変えることが必要です。それが、「夢主義社会」への革命です。

愛は本能

愛とは、自己にとって価値あるものを、大切にし未来に残したい気持ち（子孫保存の本能）

人に限らず、全ての生命は、子孫保存の本能を持っています。

子孫保存の本能を持たない生命は、途絶えてしまいます。

まず、自分自身の子孫を残したいと考えるならば、一番大切なのは自分自身の存在ということになります。（自己中心的な愛）

しかし、自分の子孫を残すには、自分や自分の身近な人を大切にするだけでなく、周りの環境も含めた社会全体を良くしなければなりません。

自己愛 ↓ 親子愛 ↓ 友人・親戚 ↓ 地域愛 ↓ 母国愛 ↓ 人類愛 ↓ 自然愛 ↓ 地球愛

・ **小さな狭い愛** ↓ 身近な人を幸せに！ **他の人を不幸に！ 争いの元！**

・ **大きな広い愛** ↓ **多くの人を幸せに！**

夢は理性

あなたに、夢はありますか？ その夢に向かって歩いていきますか？

その夢がどんなに遠いものでも、その夢に向かって歩いていけるならば、それは幸せだと思います。

あなたは、子供の頃持っていた夢を覚えていますか？

あなたは、何故大人になりましたか？

自分の夢を自分の手でかなえるために、大人になったのではないのでしょうか。

私は、子供の頃、早く大人になりたいと思っていました。

大人になって自分の夢を実現させたいと思っていました。

他の皆様も同じではないでしょうか。

でも、大人になった頃には、自分の夢を忘れてしまおう。

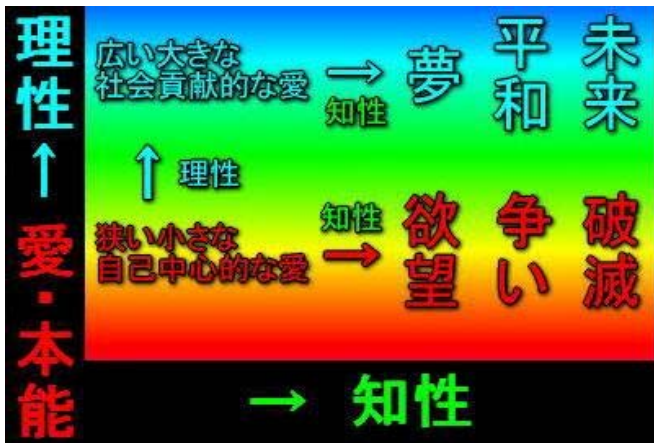
そして、「大人になる事は、夢を捨てること」と考えている人も多いのではないのでしょうか。

大人だからこそ夢を持って生きてほしい、夢に向かって歩いてほしい、と思います。

愛と夢の略図

愛は、人間の動物としての基本的な本能です。この本能が、未だ未熟で、狭い小さな自己中心的な愛の間に、知性を加えると欲望になります。欲望は争いにつながり、やがて人類滅亡につながります。

この本能に理性を加えて、広い大きな社会貢献的な愛にした上で、知性を加えると夢になります。夢は平和を望み、未来へと続きます。



愛と夢の方程式

方程式では、各項目の定義（意味付け）が必要です。

愛：子孫保存の本能

知性：探究心、創造力、考察力

理性：社会貢献を重視する感情

夢：より良い人類の未来を願う心

■愛＋知性⇐欲望

※愛（自己中心的な愛）に知性を加えると、欲望になります。

■愛＋理性＋知性⇐夢

※愛に理性を加えて、社会貢献的な大きな愛にした上で、知性を加えると、夢になります。

■夢・理性⇐欲望

※夢を手にしても、理性を失うと、欲望になります。

※夢のために頑張つて、多くの金を得た結果、金の亡者となり、我を忘れて理性を失い、欲望に走ったケースです。

偽りの夢Ⅱ欲望

「夢は大切」と思う人は多いのですが、夢と欲望を勘違いしている人が多いように思えます。

自己中心的な、小さな愛ではなく、理性を加えた、大きな愛で、より良い人類の未来を願う心「社会貢献」が、夢です。

人類の夢は、「より良い社会を、未来に残すこと」であるはずですが、個人の夢も、根底は同じはずですが。

理性を持たない人間にとって、「社会貢献」という言葉は、到底理解できないものです。従って、理性を持たない人間にとっての目標は、欲望でしかありません。

理性を持たない人間が、時たま使う「社会貢献」や「夢」という言葉は、その真の意味を理解している分けではなく、その言葉を使うことで、「自分の行動を正当化できる」ということを知っているに過ぎません。

自分の欲望より、人類の未来

人は、長く生きてても、百年程度です。その間に、個人的に、どんなに楽しい思いをしても、人類の未来には、関係ありません。目先、誰かが、お金や権力を得ても、その事は、人類の未来に関係ありません。むしろ、お金や権力を、私利私欲のために使ったならば、人類の未来には、マイナスになります。

でも、生きている間に、「人類の未来に役立つ行動」をしたならば、その行動は、価値あるものとして、人類が存続する限り、永遠に生き続けます。「人類の未来に役立つ行動」、これが、本来の夢です。人類の未来にゴールがなく、永遠に続くように、夢にゴールはありません。まずは、夢に向かって一歩、歩き出すことが大切です。「夢に向かっての一歩」、それが、「人類の未来に役立つ行動」です。

逆に、「お金や権力がほしい」、「楽しい思いをしたい」、というのは、人類の未来と関係のない欲望です。欲望は、自分のためです。そして、その自分は何れ年老いて死にます。欲望は、自分が生きている間に実現しなければ価値がありません。自分の欲望を実現するために、手段を選ばず、周りの人を犠牲にし、さらには、人類の未来をも犠牲にして、達成しようとしています。その人が死んだ後、残るのは、犠牲になった人たちと、犠牲になった人類の未来です。

第二章 ☆現代社会の問題点を考えます

【一般編】

人・物・金

人・物・金が、経済の3大要素と言われています。でも、実在するものは、人と物です。お金は、人が物を得るために、便宜的に考え出した仮想のもので、紙幣を見ると、お金は実在するように思えますが、実際には紙切れです。人が、その紙切れに興味付けをしただけです。現代は、そのお金が、実態があるかのように振る舞い、独走している状態です。そして、お金がお金を生み出す社会です。お金と言う幻影に、振り回されている社会です。

本来、大切なものは、人と物です。人は、物を作るための生産者であり、また同時に、物を消費する消費者でもあります。多くの人たちが、多くの物を作ることにより、人類の未来へと続きます。誰かが、お金持ちになっても、そのことは、人類の未来とは無関係です。本来必要なお金は、最低限の物（衣食住）を得るためのお金だけで良いのです。それ以上のお金を手にした人間は、そのお金を夢または欲望に、費やすことになります。そのお金持ちが、自分のお金を、夢（人類の未来）のために、費やしたならば、人類の未来へと続きます。逆に、そのお金持ちが、自分のお金を、自己の欲望のために、費やしたならば、人類の破滅につながります。お金は天下の回りものです。誰かが得をすれば、その分、誰かが損をします。誰かが、お金持ちになると、誰かが、貧乏人になります。

お金の問題点

今の社会では、様々な対価が存在します。

- ・労働の対価・物の対価・地位の対価・管理職の対価・セールスマンの対価
- ・発明の対価・不動産の対価・株の対価・命名権・著作権
- ・談合で得たお金・詐欺で得たお金・泥棒で得たお金・殺人で得たお金

いろいろありますが、お金になると、皆同じです。そして、商売人は、新たなビジネスモデルと称して、新たな対価を考え出し続けています。この結果、労働の対価の割合（価値）が、急激に減少しています。

お金を見ただけでは、それがどのようにして得たお金なのか分かりません。そして、そのお金で、他のものと交換できます。つまり、どんな理由・手段で得たお金でも、お金はお金なのです。この辺に、現代社会の問題の根幹があるように思えます。

コンピュータ技術が進んだ今、これらのお金を種類別に管理することが可能です。お金を種類別に管理して、お金の種類によって、交換できるものに制限を加えるべきです。これにより、無意味なお金の暴走を止めることができます。労働の価値を取り戻し、マネーゲームにより生じている貧富の格差を無くすことができます。

脳が作り出した仮想社会

人間の脳は、進化して現在に至っています。人間の脳に代わる存在としてのコンピュータも、どんどん進化しています。しかし、人間の脳には、到底及びません。

SFの世界では、コンピュータが仮想社会を作り出して、人間を支配するという物語が多くあります。実は、コンピュータが仮想社会を作り出すまでもなく、現代社会自体が既に、「進化した人間の脳が作り出した仮想社会なのでは？」と感じます。

人間の脳は大変優れています。その脳が、言葉や文書等の様々な手段で情報を得て、お互いにネットワーク（人間関係）を形成して、様々なルールを作り、巨大な仮想社会を作り出しているように思えます。

たとえば、地位・名誉・財産・お金は、人間にとって大変重要で価値あるモノであり、大きな存在です。しかし、地位・名誉・財産・お金といったモノは、現実には存在しないモノです。人間たちが、その脳で、勝手に意味付け・想像した仮想のモノ（幻影）です。その幻影に振り回されているのが、今の社会です。

現在の社会が、仮想社会だったとしても、人類の未来に向けて確実に歩んでいけば、問題ありません。しかし、現状を見ると、マネーゲームに明け暮れる社会のように見えます。仮想社

会の中に閉じこもって、未来に向かって歩むことを忘れていように見える。ニートが、毎日、TVゲームに明け暮れているのと同じです。これでは、未来を切り開くことはできません。

本来、大切なものは、地位・名誉・財産・お金ではなく、人と物です。人は、物を作るための生産者であり、また同時に、物を消費する消費者でもあります。多くの人たちが、多くの物を作ることににより、人類の未来へと続きます。

今は、未だ、豊かな社会です。マネーゲームに明け暮れていても、人類は存続できます。しかし、何れ、終焉を向えることになります。それは、異常気象なのか、戦争なのか、隕石衝突なのか分かりません。しかし、何れ、その時は来ます。その時に、気付いても手遅れです。その前に手段を講じる必要があります。